

平成 14 年度

北嶺中学校入学試験問題

国 語

(注意)

- 1 問題用紙が配られても、「はじめ」の合図があるまでは、中を開かないでください。
- 2 問題は全部で **4 枚**で、解答用紙は 1 枚です。「はじめ」の合図があったら、まず、ページ数を確認してからはじめてください。もし、ページがぬけていたり、印刷されていないかたりする場合は、静かに手をあげて先生に伝えてください。
- 3 答えはすべて解答用紙の指定された解答らんを書いてください。
- 4 字数が指定されている場合には、特に指示のないかぎり句読点も数えてください。
- 5 質問があったり、用事ができた場合には、だまって手をあげて先生に伝えてください。
- 6 「おわり」の合図で鉛筆をおき、先生が解答用紙を集めおわるまで、静かに待っていてください。

次の文章は、重松清という小説家の『半パン・デイズ』という作品の一部です。「ぼく」は小学校六年生、集団登校の班長をしています。「美奈子・まどか・早苗・健介・エッチャン」は「ぼく」が引率する下級生です。朝の登校の時、足の悪い「美奈子」が他の児童に意地悪ばかりするので、「ぼく」は「美奈子」に注意することができなくて、ひどく困っています。

この場面は、台風が来て、集団下校することになり、班毎にまとまって順番を待っているところです。
この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

声が聞こえた。女子の原さんの班だ。下級生の男子が、少し離れた場所から美奈子を呼んで、足をからかうようなことをいった。いかにもいじめっ子といった感じの、体の大きな、デブだった。ほかの男子もいっしょになって囃し立てる。さっきから*いっとう騒がしかったグループだ。原さんが止めたけど、おとなしい原さんの言うことなんか聞く気はないみたいだ。

「相手にせんとき」まどかが言うのと、美奈子はわざと（A）①机に手をつけて左足一本で立ち上がった。

デブはあとずさりかけたけど、ほかの奴らの前で見栄を張ったのか、さらに足のことをからかった。
美奈子はデブをにらんだまま、左右の机についた両手をポートのオールみたいにならに後ろに掻いて詰めていく。体を支えるのは両手と左足だけ。ぶらんと浮いていた右足が、机の脚にあたった。体のバランスがくずれ、左手をついた先が机の端っこすぎて、机の脚も浮いた。

「危ない！」

まどかの悲鳴と同時に、美奈子は床に倒れ、その上に机が倒れた。デブが（B）手を叩いて笑う。
ほっとけばいいのに、あんな奴なんて相手にすることないのに、美奈子はあきらめない。泣かない。床に這いつくばったままデブをにらみつけて、腕立て伏せのように両手を踏ん張って体を起こし、「デブデブデブデブデブ！」とマシンガンの銃声を口真似しているみたいに叫んだ。

「なんじゃあ？このチンバが！」

デブが（C）怒鳴り返した。チンバ——足が悪いことを、あいつ、そんなひどい言い方をした。

「ちょっとあんた！」

②まどかが立ち上がり、リコーダーを刀みたいに持って頭上にふりかざした。

でも、その前に、ぼくが走った。机と机の間の、どこをどう通っていったかわからない。気がつけばデブは目の前にいて、③頭を思いっきりはたいていた。

デブは（D）泣きだした。頭を抱えてその場にしゃがみこみ、「六年生のくせに、なにすんのん……。」と言った。

「アホタレが！」——これも、自分で考える前に怒鳴っていた。

「六年生じゃけえ、しばくんじゃ！」

胸がすうつとした。背中も、おなかも、からっぽになった。

原さんがデブに駆け寄って、「だいじょうぶ？だいじょうぶ？」ときく。ぼくを振り向いて、④半分怒って半分謝る顔になった。ぼくは原さんに「すまんかったの」とは言わなかった。そのかわり⑤「おまえ、班長のくせになにしよるんか」とも言わない。原さんもデブのそばにしゃがんで背中をさすってやるだけで、なにも言わなかった。ぼくたちは班長だ。下級生をまとめるのに苦労して、だけど下級生は守らなくちゃいけない。

美奈子のところに戻った。ひと足先にまどかが美奈子を抱え起こしていた。まどかの後ろに、早苗と、健介と、エッチャンもいる。みんな（E）美奈子を覗き込んでいる。

からっぽになったおなかと背中に、照れくささが溜まっていく。

ぼくは班長だから、六年生だから、オトコだから——むっつりしたままの美奈子に言った。

「なにしよるんな、おまえも。いちいちケンカしとつても、どうもならんじやろうが？自分のこと言われてそげん怒るんじやったら、自分も班のみんなに意地悪の悪いことするなや、のう、違うか？」

美奈子はうつむきかげんに横を向いていた。なにも答えない。それでもいい。ここで急に素直になるなんて、美奈子じゃない。

「みんなのう、おまえに親切にしようと思うたんは、同情したからと違うど、おまえと仲良うしたいけえ、親切にしようと思うたんじゃ。なしてそれがわからんか、のう」

美奈子の返事はなかった。

ぼくは自分の席に戻り、まどかや早苗たちもあとにつづいた。

※「いつとう」……一番。もつとも

問一、() AとEにあてはまることばを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、あつけなく イ、顔を真っ赤にして ウ、こおどりしながら エ、心配そうに オ、それに逆らうように

問二、——①「机に手をつけて左足一本で立ち上がった」とありますが、「美奈子」は何をしようと思ったのですか。答えなさい。

問三、——②「まどかが立ち上がり、リコーダーを刀みたいに持って頭上にふりかざした」とありますが、「まどか」はなぜそうしたのですか。答えなさい。

問四、——③「頭を思いつきりはたいていた」とありますが、「ぼく」はなぜそうしたのですか。答えなさい。

問五、——④「半分怒って半分謝る顔になった」とありますが、「原さん」は何を「怒って」、何を「謝る」顔をしているのですか。それぞれ答えなさい。

問六、——⑤「おまえ、班長のくせになにしようんか」とも言わない」とありますが、それはなぜですか。答えなさい。

二 次 の 文 章 を 読 ん で 、 あ と の 問 い に 答 え な さ い 。

子どもの頃、「道草をしてはいけません」とよく言われたものである。学校から家に帰るまで道草をせず、まっすぐに帰るようにと言われる。しかし、子どもにとって道草ほどおもしろいものはなかった。落葉のきれいなを見つけると拾って友人と比べっこをしたり、蟻の巣を見つけて、そのあたりで働く蟻の様子を見てみたり。それに何よりも興味があつたのは「近道」である。大人目から見ると、それは「迂路」であり道草にすぎないのだが、何とか「近道」を見つけて、どこかの家の A ウラ二ワ にはいりこんだり、時には畠を踏みつけたと怒られて逃げまわったり、まったくスリル満点のおもしろさであつた。

今から考えてみると、このような道草によってこそ、子どもは通学路の味を満喫していた、と思えるのである。道草をせず、まっすぐに家へ帰った子は、勉強をしたり仕事をしたり、マジメに時間をすごしたろうし、それはそれで立派なことであろうが、①道の味を知ることはなかつたと言ふべきであろう。

ある立派な経営者で趣味も広いし、人情味もあり、多くの人に B ソンケイ されている人にお会いして、どうしてそのような豊かな生き方をされるようになりましたかとお訊したら、「結核のおかげですよ」と答えられた。

学生時代に結核になつた。当時は的確な治療法がなく、ただ安静にするだけが治療の手段であつた。結核という病気は意識活動の方は全然おとろえないので、若い時に他の若者たちがスポーツや学問などにいそしんでいることを知りつつ、ただただ安静にしているだけ、というのは大変な苦痛である。青年期の一番大切な時期を無駄にしてしまつていて、という考えに苦しめられるのである。

ところが、自分が経営者となつて成功してから考えると、②結核による「道草」は、無駄ではなかつたのである。無駄どころか、それはむしろ なものとさえ思われる。そのときに経験したことが、今になって生きてくるのである。人に遅れをとることの悔しさや、誰ができることをできないつらさなどを味わつたことによつて、弱い人の気持がよくわかるし、死について生についていろいろ考え悩んだことが意味をもつてくるのである。

このような生き方の道として、目的地にいち早く着くことのみを考えている人は、その道の味を知ることがないのである。受験戦争とやらで、大学入試が大変であり、ここでは大学合格という「目的」に向かつて道草などせずまっしぐらに進むことが要請されているふうである。しかし、実際に入学してきた学生で、入学してから頭角をあらわしてくるのを見ると、受験勉強の間に、それなりに結構「道草」をくつていることがわかるのである。そんなことあるものか、と思われそうだが、このあたりが人間のおもしろいところで、道草をくつっていると、しまったと思つて頑張つたりするから、全体としてあんがいじつじつまの合うものなのである。

(河合隼雄「道草によつてこそ『道』の味がわかる」)

※「迂路」……まわり道

問一、—— A 「ウラニワ」、B 「ソッケイ」を、それぞれ漢字に改めなさい。

問二、—— ① 「道の味」とありますが、その中でもっとも興味深いものは何だと説明されていますか。文章中から、十字程度で抜き出しなさい。

問三、—— ② 「結核による『道草』」は、無駄ではなかったのである」とありますが、それはどうしてですか。わかりやすく説明しなさい。

問四、の中に入る言葉として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、無意味　イ、無理　ウ、有用　エ、有利　オ、充実

問五、次の中から、文章の内容と合うものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、子どもの頃は、道草を禁止されるほど、道草が楽しいものである。

イ、将来立派な経営者になるには、学生時代に大病を患うのがよい。

ウ、学生時代に結核になると、時間を無駄にしてしまうのでよくない。

エ、大学で成功する学生には、受験勉強で道草をくった者が案外多い。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

確か東南アジアの、どこかの地方を旅してきた人に聞いたのだが、①そこには地図がない。地図を作るといふ思想がないのではなく、軍事上の問題で、作ることを禁止されているらしいのである。彼から聞いたのは、地図がないことによる旅行上の不便さであったが、その時私がふと考えたのは、むしろ②それによる我々の周囲の世界の変質である。

恐らく、そうに違いない。その地方は、軍事的にそれほど緊張する以前は地図を持っていたに違いないから、地図によってこの世界を確かめるという視点を、全く失っているとは言えないかもしれないが、③こうした状態が長く続いて地図を知らない子供たちが多く出現しはじめたら、その子たちにとっての世界と、地図を知っている我々の世界とは、かなり違ったものになるに違いないのだ。

我々は④おむね、我々の周囲の世界を水平に眺めている。しかし地図は、それを垂直に眺める視点を与えてくれる。(1)我々は、地図を手に入れることにより、我々の視点を水平方向と垂直方向に分裂させることになったのであり、地図で位置を確かめ、方位をあわせて現に自分自身の立っている周囲の世界をそこになじませることにあって、あらためてそれらを統合しているのである。

⑤地図の思想に汚染されたものは、言ってみればこの種の分裂と統合をA列え間なくくり返すことによって、⑥かろうじて世界に対する統合体となり得ている。

(2) はじめから地図を持たず、⑦地図の視点、そのものを知らない人間は、そうではない。その世界の広がり、或いは地図を持つている人間より狭いかもしれないが、それは常に自分自身の足元から連続し、決して分裂することはない。⑧彼は、あらゆる知的操作なくして、世界に対する統合体であることを維持出来るのである。もしかしら、と私は考えるのであるが、道に迷うことによって生ずる不安は、(3) 地図を持つている人間だけのものではないだろうか。地図を持たない人間は、迷った地点で引き返し別な道を辿れば事足りるが、地図の思想に汚染された人間は、分裂した水平の視点と垂直の視点をそこで統合する手だてを失い、単に「迷う」のではなく、自分自身が自分自身であることを失うことにもなりかねないからである。

それだけではない。地図の思想に汚染された人間は、分裂した水平の視点と垂直の視点を知的操作によって統合し、それによってかろうじて世界に対する統合体となり得ているという事情から、どうもこの世界に対して架空の立場を得ているという錯覚にとらわれがちである。現実には、いやおうなく植え込まれているというより、どちらかと言えばそれに斜に構え、批評的に眺め返そうとしがちなのではないだろうか。

鳥瞰図というものがある。鳥の目から見た世界という意味で、私はこれが地図の思想を生み出す寸前の、つまり水平の視点から垂直の視点への移行を連続させたものだと思えるのであるが、一般にはこれこそ、我々にとって最もBコロロCい視点であると言われている。高い所に登って下界を見るのが感動的であるように、一目の贅沢が保証されるのだ。そして、なぜそうなのかということも私流に考えれば、水平の視点が垂直方向へ移行することによって我々自身が、この世界に対して無責任になれるからではないだろうか。

地上の事柄に対して、批評的に眺められるということは、当事者たる立場を失うことであり、よそ者としての立場を確保しはじめるということである。どうも、地図というものは、それをCカノワとした垂直の視点というものは、人間をそのように変質させ

たと思えてならない。⑨ 極端なことを言えば、自然を破壊し、地球をこのようなものにしたのは実は地図の思想だったのではないかとさえ、私には考えられる。

(別役 実「地図の思想」)

問一、—— A「タ(え間なく)」、B「ココロヨ(い)」、C「カノウ」のカタカナを、それぞれ漢字に改めなさい。

問二、—— ①「そこ」②「それ」③「こうした状態」の指す内容を、それぞれ答えなさい。

問三、—— ④「おおむね」、⑤「かろうじて」を、それぞれわかりやすい表現に改めなさい。

問四、(1) (3) には次のア、ウのうちいずれかが入ります。それぞれを補うのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア、つまり イ、むしろ ウ、しかし

問五、—— ⑤「地図の思想に汚染されたもの」という表現から、筆者が「地図」に対してどのような考えを持っていることが感じられますか。自分の言葉で説明しなさい。

問六、—— ⑦「地図の視点」とは具体的にはどのような視点ですか。本文中より五字で抜き出して答えなさい。

問七、—— ⑧「彼」とはどのような人を指しますか。次のア、エより最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、地図を持っている人間

イ、地図を作ること禁止された人間

ウ、はじめから地図を持たない人間

エ、地図がないために道に迷う人間

問八、—— ⑨「極端なことを言えば、自然を破壊し、地球をこのようなものにしたのは実は地図の思想だったのではないかとさえ、私には考えられる」とありますが、筆者がそう考えるのはなぜですか。次のア、エより最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、地図を持たない人間の世界の広がり、地図を持つている人間より広いかもしれないが、それは常に自分自身の足元から連続して分れていることがなく、自分自身を見失うことにもなりかねないから。

イ、地図の思想は、自分自身の生きる現実の世界に対して、よそ者として架空の立場にいるような錯覚を我々に起こさせるため、地球環境に対しても無責任な行動を許してしまいがちだから。

ウ、地図の思想につながる鳥瞰図の視点は、水平の視点から垂直の視点への移行を連続させたものであり、高い所に登って下界を見るのが感動的であるように、我々にとつて最も気持ちのよい視点だから。

エ、地図の思想を持っている人間と、最初から地図を持たない人間では、世界のとらえ方はかなり違うはずで、地図を持たない人間には、道に迷うという不安を感じることもすら、ないかもしれないから。